平成17年11月17日　第三種郵便物不認可　　機械工学科　　(不定期刊行物)　　平成17年2月1日(第2号)

機械工学科

発行所：機械工学科
責任者：学科長
編集員：有志
創　刊：H16 12/1
号　数：第2号

機械工学科長
科学科長
承認之印

機械工学科に関する情報をお寄せ下さい．筒井又は四学年内田学生(一四一小隊)まで．

3学年(第五十期)卒研配属きまる

平成十七年度の卒研配属学生が決定した。本科第五十期学生の三十三名である。彼らが二年生に成った当時は「今度の学生は優秀」と噂され、教官一同期待していた。その彼らがいよいよ卒研にやってくる。

一番人気は「強度設計」

意外に思うかも知れないが一番人気は「強度設計(千葉教授)」である。決して目立つ学問分野ではない。むしろ地味とも思える。人気の秘密を千葉教授に伺った。

この爆発的とも言える希望者の数について。

○千葉教授「私も驚いています。特に派手なことをやっている訳でもありませし、楽な訳でもありません。むしろ、地味で忍耐のいる分野です。」

学問的な興味以外の要素があるのでしょうか。

○千葉教授「思い当たると言えば、小笠原講師の人気でしょうか。」

教官に惹かれた学生が多かったのでしょうか。

○千葉教授「小笠原講師のテーマを希望した学生がほとんどでしたから、彼に惹かれたんじゃないでしょうか。」

具体的には彼の何に惹かれたとお思いになりますか。

○千葉教授「彼は学生に甘い訳ではありません。時には学生をリラックスさせるため懇親の場を設けたりしますが、全般を通してみると厳しい方だと思います。ただ、面倒見が非常に良いんです。卒研の指導で泊まり込むことも珍しくありません。彼は学生を手伝っているのではなく、学生にやらせてアドバイスをしているだけなのですが最後までその場を離れません、学生はうっとうしがっているのではいなかと思うのですが、そうではないようです。」

人間的魅力と言うことでしょうか。

○千葉教授「そうです。卒研生ばかりではありません。来期の卒研生のヒシグスレンは彼の授業で「不可」だったのですが彼の指導を受けるうちに知的好奇心が湧いてきたのでしょうか、卒研生に取ってくれと言いだし、熱意に負けて取ることにしました。彼の親身の指導の成果でしょう。それと、彼は顔と名前それと性格をすぐ覚えてしまいます。学生は親しみが湧くでしょう。」

多くの希望者の中から五人の学生を選ぶのには苦労したのではありませんか。

○千葉教授「そうです。一晩悩み続けました。成績順では芸がないし、面白くありません。そこでアメリカにいる小笠原講師と相談し、鍛え甲斐がありバラエティに富む人材を選ぶことにしました。ヒシグスレンは熱意を買いました。他の研究室に行ってもらった学生は決して成績が悪いのではなく、むしろ優秀と言われる学生です。クジに外れたと思い気持ちを切り替えてがんばって下さい。意に添わない配属にがっかりしている学生もいるかも知れませんが、『馬には乗ってみよ人には添うてみよ』と言うことわざがあります。成り行きで配属されたところにこそ運が転がっているものです。」

「人気がある」と言うと研究が派手だからだとか、楽だからだとか考えてしまいがちですが、先生のお話で学生達は以外とまじめに考えていること、また教官をちゃんと見ていることがわかりました。学生を甘く見てはいけませんね。私も学生には真摯な態度で望む様に心掛けます。本日は有り難うございました。

○千葉教授「こちらこそ、この様な話でお役に立てれば幸いです。」

人気講座の思わぬ悩み

強度設計以外にも流体工学と制御加工には定員以上の希望者が集まった。うらやましい反面、学生を選ばなければいけないと言う悩みがある。強度設計の選抜基準は「熱意と教え甲斐」だった。その他の講座は何だろう。

流体工学に伺ってみた。

○横井講師、

「うちは専門科目と英語の試験をし、成績順に取りました。来年度は国際会議で発表させようと考えていますので、特に英語を重視しました。合格者の中に派遣学生としてドイツへ行っていた真柴学生がいます。英語での論文発表にも自信があるようでとても意欲的です。大いに期待しています。」

まさに手本となるようなまっとうな選抜方法で優秀な学生を選んだようである。

次は制御加工である。

まず学生の声を聞いてみよう。

寺村雄一(213)第一希望の制御加工に内定。

「私の成績を考えますと、希望はまず叶えられないだろうと思い自暴自棄に陥りそうでした。きっと私をあわれに思って取ってくれたのだと思います。」

寺村研究だ希望が叶った学生. 充実した生活を送ろう.

一方教官は

○宇根教授「うちは私と餅田先生が担当する講義の成績で選びました。極めて事務的に処理しました。特に寺村学生にこだわった訳ではありませんが、成績で勝ち残ったわけですから、自信を持ってもらいたいですね。せっかくうちで研究をするのですから、卒業時には達成感を味わえるように厳しく指導したいと思います。」

卒研頑張れ！

教育担当
熊谷助教授

教育担当の役割は、学生の希望講座の調査および集計と、定員オーバーの講座が出た場合、当該講座の先生と連絡をとり、人数調整をすることです。

残念！

希望が叶わなかった学生もいる。その中の一人にその胸の内を聞いてみた。

中川蔵太(231)
強度設計・流体工学・制御加工を希望するが熱工学に内定。

「三つのうちどこか一つには入れるだろうと思っていたので、正直言ってがっかりしました。その時点で残された選択肢の中から熱工学を選びました。いつまでもウジウジしたくありません。気持ちを切り替え、死んだ気になって熱工学で修業します。」

まことに天晴れな心掛けである。きっと充実した研究生活を送れるだろう。

授業に打ち込む中川学生設計製図Ⅰ(横井講師)

「皆さんの希望がかなえられますように」、「どうか特定の講座だけに集中しませんように」と念じながら集計しました。しかし、残念ながら今年も特定講座に集中し、3講座で定員をオーバーしてしまいました。特に気の毒なのは、人気3講座を第1、2、3希望とし、第1希望の選抜にもれた学生です。このような場合、既に第2、3希望の講座は空きが無い訳で、自動的に第2、3希望は棄権、全ての希望講座に配属できない、ということになります。もし、「自分の希望講座に配属されたい」、「第2、3希望の権利を有効に使いたい」と考えるなら、他学生の動向を知るといった情報収集が重要になると思います。

希望講座配属できなかった学生に一言述べたいと思います。私も大学4年で、希望講座に配属できませんでしたが、私のささやかな経験に基づきますと、どのようなテーマでもやってみれば面白いものです。たとえ希望講座に配属されなくても同じ機械工学科ですから、是非頑張ってもらいたいです。

第3学年（第50期）卒研配属

流体工学	**熱工学**
松田耕助 242	小山祐輔 243
前田良太 241	本田明也 212
山下隼平 231	中川蔵太 231
真柴智樹 223	池上朋幸 211
	自動車工学
	奈良本晴彦 213
	永田正隆 211
	細谷英寿 242
計測制御	**制御加工**
藤原弘副 232	中神陽平 212
石田辰徳 221	中村紘巳 232
佐藤雄俊 243	本蔵智久 213
塩谷勝将 221	寺村雄一 213
	野口祐太 221
機械力学	
田村太宏 213	
伊藤正貴 232	
中村雄也 231	
強度設計	**機械材料工学**
上田幸史 211	虻川和也 223
大澤仁士 243	山崎善史 223
ﾊﾙﾀﾙ･ﾋｼｸﾞｽﾚﾝ 242	櫻田貴洋 211
鷲峯清三 212	関裕矢 243
竹村良太 211	山内大志 223

三年生諸君へ

機械工学学科長
宇根篤暢

卒研の配属講座が決まり研究への意欲が湧いていることだろう。ここ数年は、学生達が自ら配属先を調整していたため、配属先は何の波乱もなくすんなり決まっていた。調整者は楽だったろうが、教官としては物足りなさを感じていた。学生達の正直な気持ちを示してほしかったのである。今回は事前調整なしに希望のままを提出したため、配属希望講座に偏りが見られた。これは君たちの意志の反映であろう。決して悪いことではない。こうしたことが、教官達に卒研のあり方について考えるきっかけを与えるのである。卒研講座は知的好奇心よりも打算で選ぶのではないかと危惧していたが、かなりしっかりした考えで選んでいる様子なので安心した。希望通りではなかった学生も何人かはいるだろうが研究室は君たちを歓迎するはずである。教官達には「希望していた、いなかった」のこだわりは一切なく、ただ真摯に指導する。学生は優れた研究をしようなどと考えず、一生懸命やることを考えよう。学会や研究会での論文発表にも積極的に参加してもらいたい。こうした経験は必ず自信となり、今後の成長の糧となる。私達は、君たちを研究成果の優劣でなく、まじめでひたむきながんばりで評価する。

トピックス

十一時間連続講義に教官もヘトヘト

玉掛け・クレーン
技能講習

法改正で校内も労働安全衛生法の適用を受けることとなったため、クレーン等の設備を使用する教官については技能講習が義務付けられた。機械工学科からは筒井、横井両教官が参加した。昨年末の「玉掛け」と一月の「クレーン」の両講習を終了した横井教官は「玉掛け、クレーンは奥が深い。これらが機械工学の基礎の上に成り立っていることがよくわかりました。現場を理解してこその工学だと言うことを再認識させられた貴重な講習でした。しかし、十一時間連続講義には参りました。」と講習の重要性を強調していた。

この技能講習修了者には修了書が交付され、日本国内のあらゆる施設、工事現場でのクレーンに関する作業・作業指揮ができる。